

# ハンドピースメンテナンスフロー



メンテナンスを行う際は感染予防のため、マスク、保護メガネ、グローブなどを着用してください。

治療が完了しましたら必ず<(1時間以内)> 1~5の手順に沿ってメンテナンスを必ず行ってください。

血液などが付着したまま放置されますと、血液などの凝固が原因で腐食による発熱が発生し、火傷や故障の原因となる恐れがあります。

## 1. 準備

### X-SG25L



### X-SG93L / X-SG93

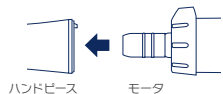


### Z-SG45L / Z-SG45



① バーを取り外します。

② ハンドピースをモーターから取り外します。



## 2. 洗浄 / 清掃 / 消毒

### 手動での洗浄

① ハンドピースに付着した汚れを流水下でブラシ(金属製は不可)を用いて洗い落としてください。

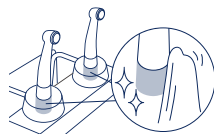
② 水分を吸水性のある布などで拭き取ります。

#### ▲ 注意

もし水が内部に入った場合は、ハンドピース後部よりシリンジなどでエアを噴射して水分を除去してください。水分が入った状態で注油を行うと、注油の効果が損なわれるだけでなく、内部腐食など発生する原因となる恐れがあります。

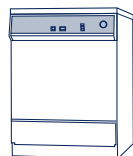
### ウォッシャー・ディスインフェクター(熱水洗浄器)での洗浄

① ハンドピースホルダーに保持される部分は、消毒用アルコールで汚れを拭き取ってください。



#### ▲ 注意

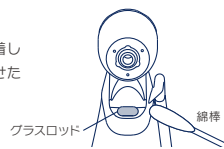
熱水洗浄器を使用する場合は、洗浄後に十分乾燥させて、内部の水分を取り除いてから注油をしてください。水分が残った状態で注油を行うと、注油の効果が損なわれるだけでなく、内部腐食などの発生する原因となる恐れがあります。



② ISO15883-1に合致した熱水洗浄器を使用してください。熱水洗浄器の取扱説明書に従ってください。

### グラスロッドの清掃(ライト付のみ)

グラスロッドにゴミや切削物などが付着した場合は、消毒用アルコールを染みこませた綿棒などで丁寧に拭き取ります。



### 消毒

清掃・洗浄を行った後、消毒用アルコールを染みこませた布などで丁寧に全体を拭き取ります。



## 3. 注油

### PANA SPRAY Plusでの注油

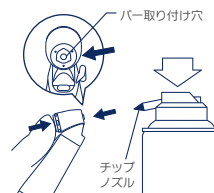
各患者の治療後、またはオートクレープ滅菌前には、以下の通り必ずパナスプレープラスで注油を行ってください。その際オイルの周囲への飛散を防ぐため、必ずハンドピースを布などで覆ってください。パナスプレープラスをご使用する前はスプレー缶を3~4回よく振ってからご使用ください。



### チャック内の清掃

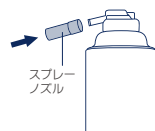
① パナスプレープラスのノズル部にチップノズルを取り

② プッシュボタンを軽く押しながらバーの取り付け穴へ直接スプレー注油を行います。



注意: チャックの清掃を怠りますとチャック内にゴミがたまり、バーが抜けるなどの恐れがあります。ハンドピース先端から出てくるオイルの色が汚れている場合には、この汚れが無くなるまで繰り返し注油を行ってください。

① パナスプレープラスのノズル部に、E-タイプスプレーノズルを強く差し込みます。



② スプレーノズルをハンドピース後部へ挿し込み、ハンドピースを押さえて、ハンドピース先端よりオイルが出るまで2~3秒スプレーします。これを2~3回繰り返します。注油は先端から異物などの汚れが出なくなるまで繰り返し行います。



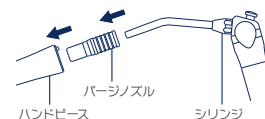
▲ 注意 自動注油機は、使用しないでください。

## 4. 余剰オイルの排出

### [Z-SG45L/Z-SG45]

① ハンドピース後部にパージノズルをカチッと音がし、固定されるまで挿し込みます。

② シリンジなどをパージノズルに挿し込み、30秒以上エアを噴射しハンドピース内の余剰なオイルを排出してください。

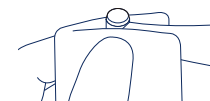


#### ▲ 警告

ハンドピース内に余剰なオイルが残留していると、ハンドピースが発熱し火傷をする恐れがあります。

### [X-SG25L/X-SG93L/X-SG93]

バーを取り外したまま、15秒ほど空運転してください。



#### ▲ 注意

オイル飛散を防ぐため、ヘッドに布などをあてがう場合は、プッシュボタンを押さないように注意してください。バーが取り付けられなくなる恐れがあります。



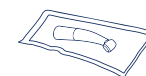
## 5. 包装 / 滅菌

### 包装

注油により表面に付着したオイルをガーゼなどの布で全体を拭き取ります。



ハンドピースを個々に滅菌バッグに入れ、密封します。



#### ▲ 注意

PVA(ポリビニルアルコール)などの水溶性の接着成分を含む滅菌バッグは使用しないでください。滅菌中に溶出した接着成分が製品内部に入り込み、回転不良(固着して作動しない)などの不具合を起こす場合があります。

### 滅菌

オートクレープ滅菌を行います。以下の条件でオートクレープ滅菌を行ってください。



※132℃で15分間以上、又は134℃で3分以上。  
※ご使用のオートクレープ滅菌器の取扱説明書に従ってください。  
※乾燥工程を含め、135℃をこえる滅菌器を使用しないでください。故障の原因になります。

135℃  
このマークの付いているナカニシ製ハンドピースは、135℃の蒸気滅菌器で滅菌可能です。

#### ▲ 注意

● 酸化電位水(強酸性水、超酸性水)、強酸、強アルカリ性の薬剤、塩素含有の溶液、ベンジン、シンナーなどの溶剤で洗浄、浸漬、拭き取りをしないでください。  
● このマークの表示がある製品は熱水洗浄が可能です。製品の取扱説明書に従ってください。

#### ▲ 注意

● 各患者の治療後、ハンドピース内に残った汚れ、切削粉などを排出・洗浄し、ベアリングなどを潤滑するために必ず注油を行ってください。  
● チャック内の清掃、ハンドピース内部への注油を怠りますとベアリングなどの摩耗粉や汚れが原因で以下の不具合、または思わぬ事故が発生する恐れがあります。【ハンドピースの発熱や回転不良・異常な振動、音/バーの振れ/バーが抜ける、または抜けにくい/ベアリングの早期破損】

● 上記の注油を何度行ってもオイルに汚れがまざる場合は、内部部品が消耗している恐れがあります。販売店へ修理を依頼してください。● 注油する際は、ハンドピースをしっかり押さえてスプレーの圧力によって飛び出さないように注意してください。● 洗浄・注油が十分に行われない場合、内部に残留した血液などに内部が腐食し、回転不足やトルク不足など故障の原因になります。● パナスプレープラスを、逆にして使用しないでください。● 他社製のオイルは使用しないでください。使用中にハンドピースが発熱する恐れがあります。

治療が完了しましたら必ずすぐ(1時間以内)に 1~4の手順に沿ってメンテナンスを必ず行ってください。

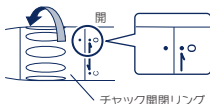
血液などが付着したまま放置されますと、血液などの凝固が原因で腐食による発熱が発生し、火傷や故障の原因となる恐れがあります。

## 1. 準備

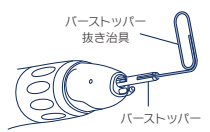
### X-SG65L / X-SG65



- ① チャック開閉リングを"O"の方向に「カチッ」と音がするまで回し、バーを取り外します。



- ② パーストッパーを使用している場合、パーストッパーの取り外し付属の抜き治具をチャックに挿し込み、パーストッパーの溝に引っかけ引き抜きます。



- ③ ハンドピースをモーターから取り外します。

### SGS / SGA



- ① チャック開閉リングを"O"の方向に「カチッ」と音がするまで回し、バーを取り外します。



- ② SGS-ES/SGA-ESにてストッパーを使用している場合、ストッパーの取り外し専用ドライバーでストッパーのねじを緩め、引き抜きます。

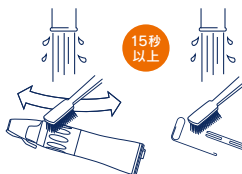


- ③ ハンドピースをモーターから取り外します。

## 2. 洗浄/清掃/消毒

### ハンドピースの洗浄

- ① ハンドピースに付着した汚れを流水下(38℃以下、3.5L/min以上、飲料水レベルの水質を推奨)でブラシ(金属製は不可)を用いて洗浄します。



- ② 水分を吸水性のある布などで拭き取ります。

#### ▲ 注意

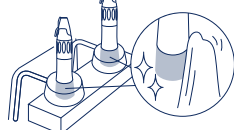
もし水が内部に入った場合は、ハンドピース後部よりシンリンジなどでエアを噴射して水分を除去してください。水分が入った状態で注油を行うと、注油の効果が損なわれるだけでなく、内部腐食など発生する原因となります。

### ウォッシャーディズインフェクター(熱水洗浄器)での洗浄

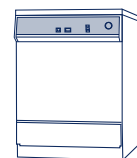
- ① ハンドピースホルダーに保持される部分は、消毒用アルコールで汚れを拭き取ってください。

#### ▲ 注意

熱水洗浄器を使用する場合は、洗浄後に十分乾燥させて、内部の水分を取り除いてから注油をしてください。水分が残った状態で注油を行うと、注油の効果が損なわれるだけでなく、内部腐食などの発生する原因となる恐れがあります。

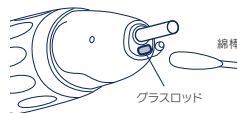


- ② ISO15883-1に合致した熱水洗浄器を使用してください。熱水洗浄器の取扱説明書に従ってください。



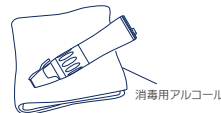
### グラスロッドの清掃(ライト付のみ)

グラスロッドにゴミや切削粉などが付着した場合は、消毒用アルコールを染みこませた綿棒などで丁寧に拭き取ります。



### 消毒

清掃・洗浄を行った後、消毒液(消毒用アルコール)を含ませた布等で丁寧に拭き取ります。



## 3. 注油

### PANA SPRAY Plusでの注油

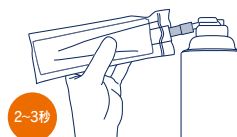
各患者の治療後、またはオートクレープ滅菌前には、以下の通り必ずパナスプレープラスで注油を行ってください。その際オイルの周囲への飛散を防ぐため、必ずハンドピースを布などで覆ってください。パナスプレープラスをご使用する前はスプレー缶を3~4回よく振ってからご使用下さい。



- ① パナスプレープラスのノズル部に、E-タイプスプレーノズルを強く差し込みます。



- ② スプレーノズルをハンドピース後部へ挿し込み、ハンドピースを押さえて、ハンドピース先端よりオイルが出るまで2~3秒スプレーします。これを2~3回繰り返します。注油は先端から異物などの汚れが出なくなるまで繰り返し行います。



▲ 注意 自動注油機は、使用しないでください。

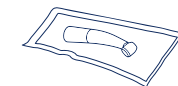
## 4. 包装/滅菌

### 包装

注油により表面に付着したオイルをガーゼなどの布で全体を拭き取ります。



ハンドピースを個々に滅菌バッグに入れ、密封します。



#### ▲ 注意

PVA(ポリビニルアルコール)などの水溶性の接着成分を含む滅菌バッグは使用しないでください。滅菌中に溶出した接着成分が製品内部に入り込み、回転不良(固着して作動しない)などの不具合を起こす場合があります。

### 滅菌

オートクレープ滅菌を行います。以下の条件でオートクレープ滅菌を行ってください。



※132℃で15分以上、又は134℃で3分以上。  
※ご使用のオートクレープ滅菌器の取扱説明書に従ってください。  
※乾燥工程を含め、135℃をこえる滅菌器を使用しないでください。故障の原因になります。



このマークの付いているナカニシ製ハンドピースは、135℃の蒸気滅菌器で滅菌可能です。

#### ▲ 注意

- 酸化電位水(強酸性水、超酸性水)、強酸、強アルカリ性の薬剤、塩素含有の溶液、ベンジン、シンナーなどの溶剤で洗浄、浸漬、拭き取りをしないでください。
- このマークの表示がある製品は熱水洗浄が可能です。製品の取扱説明書に従ってください。



#### ▲ 注意

- 各患者の治療後、ハンドピース内に残った汚れ、切削粉などを排出・洗浄し、ベアリングなどを潤滑するために必ず注油を行ってください。ハンドピース内部への注油を怠りますとベアリングなどの摩耗粉や汚れが原因で以下の不具合、または思わぬ事故が発生する恐れがあります。[ハンドピースの発熱や回転不良/異常な振動、音/パターの振れ/パターが抜け、または抜けにくい/ベアリングの早期破損]

- 上記の注油を何度か行ってもオイルに汚れがまざる場合は、内部部品が消耗している恐れがあります。販売店へ修理を依頼してください。
- 注油する際は、ハンドピースをしっかり押さえてスプレーの圧力によって飛び出さないように注意してください。
- 洗浄・注油が十分に行われない場合、内部に残った血液などにより内部が腐食し、回転不足やトルク不足など故障の原因になります。
- パナスプレープラスを、逆さにして使用しないでください。
- 他社製のオイルは使用しないでください。使用中にハンドピースが発熱する恐れがあります。